

一般社団法人 日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：森川 宏平（昭和電工㈱代表取締役社長）、以下「日化協」）は8月21日（金）、「2020年 日化協LRI 研究報告会」を開催いたします。

LRI（Long-range Research Initiative：長期自主研究活動）は、日米欧の化学工業会が人の健康や環境に影響を及ぼす化学物質の影響を評価する優れた研究を長期的に支援する活動です。日化協LRIでは、化学産業が抱える喫緊の課題や社会のニーズに応える研究テーマを広く皆様に紹介するとともに、化学物質安全に関連する最新の話題を共有する場として研究報告会を毎年開催しています。

今年の報告会では、午前の部として、「第7期 完了した研究の報告」および「日化協LRI賞 受賞者講演」を、午後の部では「第8期 採択中の研究課題の進捗状況」のほか「リスクコミュニケーションの最前線」と題してシンポジウムを開催します。

（詳細は、添付の「2020年 日化協LRI 研究報告会プログラム」を参照ください。）

なお、本年は新型コロナウイルス感染防止の観点から、WEB ミーティング形式で開催することといたしました。

※日化協LRI賞とは…“化学物質が人の健康や環境に与える影響に関する評価”について優れた研究実績をあげた若手研究者を支援するために、日本毒性学会および日本動物実験代替法学会のご協力の下で授与する賞です。

【開催概要】

開催日時： 2020年8月21日（金）
9:20～17:00

場 所： WEB ミーティング形式での開催

参加費： 無料

参加申込： 2020年7月20日（月）より

日化協LRIサイトで案内 <https://www.j-lri.org/>

申込期限： 2020年8月21日（金）

■ 午前の部：

◇第7期 完了した研究の報告（口頭発表4演題）

◇LRI 賞受賞者講演（口頭発表2演題）

■ 午後の部：

◇第8期 採択中の研究課題の進捗状況（口頭発表13演題）

◇シンポジウム 「リスクコミュニケーションの最前線」（口頭発表4演題）

《本件に関するお問い合わせ先》

（一般社団法人）日本化学工業協会 LRI事務局 稲若 TEL:03-3297-2575

<2020年 日化協 LRI 研究報告会プログラム>

日時： 2020年8月21日(金) 9:20~17:00

会場： Web 開催

プログラム：

敬称略

午前の部	
9:20-9:25	開会挨拶 渡辺 宏 (一般社団法人 日本化学工業協会 専務理事)
9:25-11:10	第7期 完了した研究課題の報告 座長: 新野 竜大(株式会社三菱ケミカルホールディングス)
	<i>In vitro</i> 全身毒性試験チップデバイスの開発 代表研究者 福田 淳二 (横浜国立大学 工学研究院 教授)
	血中 cfDNA を用いた化学物質曝露影響を全身的に予測するスクリーニング法の開発と胎児期曝露影響予測への応用 代表研究者 宮崎 航 (弘前大学大学院 保健学研究科 教授)
	(休憩)
	機序に基づくカーボンナノマテリアルの有害性と発がんリスク評価法の確立 代表研究者 津田 洋幸 (名古屋市立大学 津田特任教授研究室 特任教授)
	ディープフェノタイピング法に基づく化学物質の生物作用分析システムの開発 代表研究者 楠原 洋之 (東京大学大学院 薬学系研究科 教授)
11:10-11:15	(休憩)
11:15-12:15	LRI 賞 受賞者講演 座長: 小川 良二 (昭和電工株式会社)
	動物実験代替法の開発における統計学の役割【日本動物実験代替法学会 第4回 LRI 賞】 寒水 孝司 (東京理科大学 工学部 情報工学科 教授)
	慢性ヒ素中毒の発症機構と生体応答に関する研究【日本毒性学会 第6回 LRI 賞】 角 大悟 (徳島文理大学 薬学部 准教授)
12:15-13:00	(休憩)
午後の部	
13:00-13:50	第8期 採択中の研究課題の進捗報告-1 座長: 平井 祐一 (日産化学株式会社)
	PNEC 導出における種の感受性分布の役割とその簡易推定方法の探索 代表研究者 加茂 将史 (産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員)
	マイクロプラスチックの存在下、非存在下における魚類への生物蓄積と生物間濃縮に関する研究 代表研究者 鏑迫 典久 (愛媛大学大学院 農学研究科 教授)
	劣化マイクロプラスチック由来吸着化学物質の体内動態モデルの構築と影響評価 代表研究者 大嶋 雄治 (九州大学大学院 農学研究院 教授)
	マイクロプラスチック生成機構の解明 代表研究者 黒田 真一 (群馬大学大学院 理工学府 教授)
	マイクロプラスチックの環境リスク評価のための概念モデルの構築と東京湾での試行的リスク評価 代表研究者 内藤 航 (産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究グループ長)
13:50-13:55	(休憩)
13:55-14:35	第8期 採択中の研究課題の進捗報告-2 座長: 福井 浩子 (昭和電工株式会社)
	再構築皮膚モデルを用いた <i>in vitro</i> 皮膚感作性試験法 EpiSensA (Epidermal Sensitization Assay) のバリデーション研究 代表研究者 宮澤 正明 (花王株式会社 安全性科学研究所 主任研究員)
	ヒト幹細胞試験による迅速・正確・低コストの化学物質ハザード AI 評価法の開発 代表研究者 藤渕 航 (京都大学 iPS 細胞研究所 教授)
	ヒト T 細胞の活性化・分化誘導 (Key event 4) を指標に感作性・アレルギー誘発性を評価する新規代替法の開発 代表研究者 善本 隆之 (東京医科大学 医学総合研究所 免疫制御研究部門 教授)

	<p>学習記憶障害をもたらすグルタミン酸受容体結合化合物の発達神経毒性・神経毒性を評価するインビトロ試験法の構築 代表研究者 關野 祐子（東京大学 大学院薬学系研究科 特任教授）</p>
14:35-14:40	(休憩)
14:40-15:20	<p>第8期 採択中の研究課題の進捗報告-3 座長: 奥田 峰広（花王株式会社）</p>
	<p>発達神経毒性ポテンシャルのスクリーニングとしての短期 <i>in vivo</i> 甲状腺ホルモン影響評価法の開発 代表研究者 山田 智也（住友化学株式会社 生物環境科学研究所 フェロー）</p>
	<p>発達期神経評価指標を用いた化学物質毒性評価法の確立 代表研究者 古武 弥一郎（広島大学 大学院医系科学研究科 教授）</p>
	<p>発達神経毒性の AOP 解明に資する神経炎症評価系の開発 代表研究者 西村 有平（三重大学 大学院医学系研究科 教授）</p>
	<p>化学物質誘導性甲状腺機能低下症の発達神経毒性評価に資する Adverse Outcome Pathway の構築 代表研究者 中西 剛（岐阜薬科大学 衛生学研究室 教授）</p>
15:20-15:35	(休憩)
15:35-16:55	<p>シンポジウム : テーマ「リスクコミュニケーションの最前線」</p>
	<p>石油化学工場における非常時のコミュニケーションをめぐって 村山 武彦（東京工業大学 環境・社会理工学院 教授）</p>
	<p>演題変更 （経済産業省 製造産業局 化学物質管理課）</p>
	<p>エコチル調査の成果の国民への情報提供に関する取組状況について(仮称) （環境省 環境保健部 環境リスク評価室）</p>
	<p>食品中化学物質の安全性に関するリスクコミュニケーション 畝山 智香子（国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部長）</p>
16:55-17:00	閉会挨拶